

平成 21 年度「北方領土の日」記念大会

記念講演 「初志貫徹こそ一日露関係」

日時 平成 21 年 2 月 1 日（日）午後 1 時半～

場所 ボルファートとやま

講師 吹浦 忠正 氏

（ユーラシア 21 研究書理事長 拓殖大学客員教授）



今日は、北方領土返還要求富山県民会議にお招きをいただきまして、本当にありがとうございました。富山県というところは実に重要なところでございます。四方正治議長を富山県民会議会長として、富山県の北方領土返還要求大会は、もしかしたら日本一の都道府県民大会ではないかと私は思っております。全国を随分このことで回りましたけれども、こんなにも美男美女と申し上げたいのですが、老若男女といいましょうか善男善女がそろっているところは、そんなにはない私は心からそう思っております。

富山県というのは、本当に日本一というものがいろいろあるところのようでございます。われわれにしてみたら富山という名前を覚えたのは、少なくとも私は薬でございました。ですから、今日も来ましたらすぐ、売薬博物館というのがあるというのでホテルで聞きましたら、市立の民俗民芸村というところに連れて行かれましたが、ここは全然駄目でしたね。あそこの売薬館にご関係の方がいると具合が悪いのですが、市役所を定年で辞めたのではないのでしょうかね。そういう人がどすんと座って、さあ見せてやるから金を払え 100 円だ、という感じで取られました。

その後、広貫堂さんへ行ったら、やはり本物は違いますね。広貫堂さん実にサービスがいい、入場料は結構でございますと言うのです。ちゃんと何とかドリンクを 1 本ずつ飲ませてくれて、説明する中年のおばさんだかおねえさんだか実にうまいのです。長年薬のセールスをやっておられたというのですが、うまいなと思っているうちに 7000 円ぐらい薬を買わされましたけれども、あれって本物じゃないですか。私はそう思って、こういうふう

に売っているんだなど。薬も日本一ですね。

もう一つ皆さん、日本一は知っていますか、富山県の日本一です。これはめったに分からないですが、外交官が一番多いのは富山県なのです。日本の外交官は、圧倒的に第 1 位は富山県です。ついでに言わせてもらうならば第 2 位は、ぐっと下がってわが秋田県なのです。本当にその差は随分大きいものでございます。だからいいという人もいるし、だから日本の外交は駄目だなんて、昨日まで思っていて今日から変わる人もいるかもしれません。その辺は皆さんが好きなように解釈をしていただきたいのです。

さて、多くの方が昭和 20 年 8 月 15 日に日本では戦争が終わったつもりでいますが、それから 3 日たって 8 月 18 日になって、この地図で言いますと、あそこの記念の念という字のさらに上ぐらいのところにあります。皆さんの資料の中に、地図があります。開いたところに千島列島と書いて、カムチャッカ半島のすぐ手前に一番小さい占守島という島があ

ります。この小さな島に、日本の第91師団という師団がいました。堤不來貴（つつみふさき）という素晴らしい方が中将でいらしたのです。15日に戦争は終わったはずですが、ここに18日に向こうは艦砲射撃と空爆を加えて、それで大量のソ連軍が上陸して来たのです。

それで、この第91師団は一遍しまった武器を、慌てて梱包を解いて持ち直して、それで戦ってなんと大勝利をしてしまったのです。ソ連軍に勝った、しかも先方で死んだのが2000人以上、日本軍で死んだのは目一杯数えても600人。私は、何とかこの生き残りの人に会いたいと思って、実は先週の今日、私は札幌で当時の戦車隊の小隊長さんに会ったのです。元気な方でございましてね、「君、もうこんな話を聞いてくれるやつはほかにいない」というので、ありったけの資料を全部くれるというのです。仕方ないからダンボールでうちに送りましたけれどもね。

戦後、ずっと小学校の絵の先生をやっていたのです。ですから占守島で、全部絵を描いていたのです。ソ連軍が来たところ何したところと、それも全部頂きました。手に芸のある人はいいですね。私なんかはまるっきり芸がないから、ただひたすら逃げているかもしれませんが、彼は戦車を操縦して戦った人です。その戦争でそういうことがありました。

しかし、3日間戦争をやって日本軍が勝っているうちに、これは勝ち切ることは本当は絶対できない戦争です。つまり向こうは、なんぼでも次々と送ってくるだけの余裕があって、こっちはその島にいる91師団の2万人しかいないのです。とにかく、勝っているうちに札幌の北部総司令部から、やめろと言われて戦争をやめたのです。ここが日本の最後の戦争だったのです。

その後、ずっと島伝いにソ連軍がウルップ島まで下りて来ます。ウルップ島というのはこの地図で言うと白い千島の千という字の左側にある大きな島です。ここまで来てその部隊は引き揚げて行ったのです。他方、北方4島はどうしたかという、8月28日になってから、樺太を占拠した部隊があらためてやって来て、北対協（北方領土対策協議会）が作った資料を完全に開いたページの左の下、こころベツ村からソ連軍は上陸したのです。ルベツ村は今、家1軒も何もないところになりましたけれども、そこに上陸して来たのです。

来たぞという知らせを、当時ですから馬で北隣のシャナというところまで知らせ、そこにある2等郵便局、2等というのは電報も扱うし郵便も扱う郵便局ですが、そこに知らせが行って、そこから根室の方に連絡が来て、北方4島にもソ連軍がやって来たということが分かったという経過があったところです。9月5日までかかって、歯舞群島を全部ソ連軍が占拠して、それ以来今日に続いているというのが、この問題の始まりであり現状なのです。そこから、現状は何も変わっていません。

もちろん少し変化はありました。最初のころは歯舞群島にも人が住んでいました。しかし、昭和27年（1952年）の、私も小学生ですから覚えていますけれども、十勝沖地震というのがあって、あそこは津波で全部さらわれたから、怖くて歯舞群島に誰も住まなくな

ったのです。しかしながら、歯舞群島には昭和 11 年に日本が建てた灯台が、今も光を灯しています。主はいなくても光がともる。

しかもそれが傾いている辺り、いかにも時代を反映しております。その近くで一昨年
の 8 月 16 日に、日本の漁船員が 1 人射殺されるという悲しい事件があったわけ
でございます。本当に今の長谷川茄鈴さんの話がありましたけれども、貝殻島
というのは本当に目と鼻の先、3.7 キロというところですよ。

ここは昆布の大変な産地で、おそらく富山の昆布巻きかまぼこというのは、あの
辺りからともとも来たものではないかと思えます。そうでなければ利尻島
辺りからですよ。北前船の話が、コンテストの優秀作品の中にありま
したけれども。私の田舎は先ほど話したように秋田でございますから、
この辺りからの人は、いっぱいいるんですよ。越中屋さんという姓
の方は、大抵クラスに 1 人はいます。もちろん越後屋さんも能登屋
さんも加賀屋に至ってはクラスに 4~5 人います。私の先祖は三国屋
でございますが、そういう名前がずらっとあります。

これは全部北前船で行って、北海道まで行く勇気がなかったのか、秋田美人に腰を抜か
したのかどっちかでしょうね。そういう人が今も秋田に残っていますから、た
くさん何とか屋という日本海の名前、佐渡屋さんもいます、能登屋さん
もいます、隠岐さんという人もいます、長門さんもいます、淡路屋
さんまでいます。つまり淡路というのは高田屋嘉兵衛の出身地なわけ
ですよ。高田屋嘉兵衛は北方 4 島を開いた人ですよ。

日本が侍を送って開いたのではないのです、一番頑張ったのは高田屋嘉兵衛さん
ですよ。士農工商の一番下にいる商人の、高田屋嘉兵衛が関門海峡を
通って、ずっとこの辺を通っていったのでしょ、恐らく。三国を通
って富山を通って新潟、秋田と行って津軽海峡を越えて、函館を開
いたのは高田屋嘉兵衛ですよ。

それから森進一の、襟裳の春の襟裳岬を開いたのも高田屋嘉兵衛
ですよ。それから厚岸、今、真夏でもカキが食べられる、あそこ
を開いたのも高田屋嘉兵衛ですよ。根室を開いたのも高田屋嘉兵衛
ですよ。国後、択捉まで行った人なですよ。ですから血と汗で開
いた、血よりもやはり汗ですよ、寒いからあまり汗は出なかつたか
もしれませんが。

今日、富山に来ると言ったら、うちの連中はきっと寒いぞと
言うので、すごい靴を履かされてまいりました。長袖のスキーに
行くような下着を着させられて、股引なんて久しくはいたこと
がないものをはかされて来ました。

先月、実は私はサハリンに行つてまいりました。サハリンとい
うのは腹が立つところでございますよ。私は 20 回以上、もつと
行つていきますかね。サハリンフォーラムというのでも 11 回
やっております。つまり、サハリンが北方 4 島を実際に支配
しているのです。そのサハリン州の旗というのがあります。富山
県の旗というのはないのかな。

サハリン州の旗というのは、サハリンの南北に細長い本島等が
書いてあつて、こつちに千島列島をずっと書いて、最後に北方 4
島を丁寧に歯舞群島の小さなところまで全部書いて、それを青
地に白でシルエットにしているのです。私どもはその旗を認め
られないので

す。つまり、そのサハリン州の旗を認めるということは、北方4島をサハリンが支配している、ロシアが支配していることを認めることになるものですから、私どもはこれに非常に強く反対しました。

というのは一昨年9月にやったときに、これは東京でやったのですがね、2日間やっている会議の2日目に、彼らはいきなり議長席の後ろに、その旗を張りだしたのです。私たちは当然引っぱがして、胸ぐらをつかんでけんかをして引きずり下ろしました。従って、去年9月にサハリン州の旧豊原、今ユジノサハリクスといいます。ユジノというのはユーゴスラビアのユーゴと同じで南という意味です。ユーゴスラビアは南スラブ人の国、ユジノサハリクスは南サハリンの町、国後島の旧フルカマップとわれわれが言っているところは、ユジノクリリスクと言いますけれども、これは南千島の町という意味です。

それはともかくとして、ユジノサハリクスで11回目の会議をやることで、「サハリンフォーラム」と言っています。それは毎年9月にやることに決めています。しかしながら先方は、旗を引きずり下ろされたことは許し難いと言って来ましたから、それならわれわれはそれなら会議をやめると突っぱねました。そうしましたら、これは絶対向こうが引くだろうと、こっちも強く出たのですが9月の会議は流れました。

10月に向こうの最強行派、ポノマルフという検事上がりの、検事上がりというといかにもきちんとしているようですけれども、まるっきり無頼漢のような男です。いいですよ、「お前のことをそう言っていたぞ」と告げ口しても。本人もきっとそう思っているでしょうから。彼は州議会議員なのです。日本の県議会議員さんはみんな立派ですよ、四方先生をごらんください、こんな立派な人が県議会議員ですから。あそこの州議会議員というのは本当にひどいものです。その旗を張り付けたのも本人ですよ、われわれと胸ぐらをつかみ合ったのもその人です。

あそこの国は、立候補するために推薦人を100人連ねなければいけないわけです。この人が何と、その100人の名前がほとんど偽装だったのです。それで立候補資格を失ったというおっさんがいるのです。彼の選挙があるからと思って見ていたら、この選挙はそんなことで彼は立候補は取りやめたから、彼は失業してしまったのです。

じゃ12月にやりましょうかと言ったら、向こうは全部日本側の条件をのんで、つまりサハリン州の旗を会場に掲げることはしないで、これは向こうにしたら大変な決断だと思いますよ、それでやりました。そうしたら彼がまた出てきたのです。こっちもいろいろ調べて、向こうもこのままでは日本側とけんかになると思ったのでしょう、向こうが全面的に折れました。折れたけれどもただでは折れません。この人が今度日本とのビザなし交流の最高責任者に再就職したのですから。

ですから、今、入国カードの問題でもめていますね。こういう人が向こうにはいるのです。あの国というのは実に憎たらしく、実にかわいい国なのです。先ほど司会の大野久芳議員が言っていましたけれども、私は100回以上あの国に行っています。はっきり言って、決して好きな国ではないです。ただ、私の兄もシベリアに抑留されています。そのほか私

どものクラスメートの親で死んだ人もたくさんいました。それは終わったことですからいいのです。

しかしながら、私が初めてソ連という国へ行ったのは1968年11月29日です。初めてですから今でも覚えています。そのときには船を借りに行ったのです。船を借りて、それに日本の青年を600人乗せて東南アジアを回ろうというので、船の交渉に行ったのです。

まず、最初に30日に交渉しました。お値段が全然合わない、さあ、困ったと。この次は3日後に来いと言うから、3日間することがないのです。初めてですから、せめてボリショイ劇場でも行ってみようと思って、地下鉄の表を見ながら行ってみただけでも、皆目見当がつかないのです。それで、必死にそれだけを覚えた「ボリショイ劇場はどう行ったらいいですか」というのをロシア語で聞いたら、丸々と太ったおばさんが「なんたらかんたら」と、なぜそんなにいっぱい言わなければいけないかと思うぐらいいっぱい言うのです。

こっちがぼけ一としていたら、やおら私の手を引いて、そのおばさんがたったか歩いて行って、あれだと教えてくれたのです。あの親切さ、あの温もりを私は忘れられません。女に弱い吹浦さん、それ以来いくらソ連が気に入らなくても、あのおばさんだけは恨めないという、そういう状態が今日続いているのです。

インターナショナルというのは、やはりインターパーソナルの積み重ねなのです。人と人との関係の積み重ねです。しかし、私は北方領土返還運動の熱心さについては、皆さんに勝るとも劣らぬ情熱を持って長年やってきております。クレムリンの中に行くと、「北方領土返還」なんて怒鳴ってくる人は日本でもそうはいないです。何十回もそれをやってきました。

そういう思いでやってまいりましたけれども、しかしながら北方領土で、今日うれしかったのは次世代があんなにしっかりしておられることです。しかも教科書にみんな出てきて、小学校6年でやって、また中学校3年でやったというじゃないですか。これはやはり、親の方がよっぽどしっかりしなければいけないよという気分が私はいたしました。そのことが、とてもうれしいことでした。

富山県というのはそういう意味で、芯のあるところでございますけれども、私は昨日から来て、面食らったのは片仮名がやたら多い。やはり日本一外交官の多い町はこういうものかなと思っています。泊まったホテルの名前は、今も覚えられません、これを見ましょう。オークキャナルパークホテル、よく皆さん、覚えられますね。皆さんは、ホテルに泊まることのないからいいのかもしれませんが、この場所が、ボルファートとやま、これはどういう意味ですか？ この1階にあるのがリラシティーというのですね。

あまり長生きしてはいけないのですかね。私は、八十何カ国へ行っていますが、こんな面食らう地名のところはありませんね。うちの田舎ではこんなことはありませんよ。こんな名前を付けたら、秋田じゃ一遍でつぶれます。皆さん、ぜひオークキャナルパークホテルとボルファートとやまと、リラシティーで金を使って遊んでください。すごいと思いましたね、しゃらくさい町です。

でも、そのしゃらくさい町で、これだけ皆さんが北方領土返還要求運動に熱心だということは、これはやはり先ほど言ったように、越中衆が開いた北方領土。北方領土から帰った人の話を読みますと、越中衆は多いですね。当時から越中衆と言われていたのです。今はCDが出ていますから、皆さん帰りにぜひ買ってください。越中衆の皆さん、一世の人たちが北方領土について語ったCDを作っているのは、全国で富山県だけですよ。

それはやはり黒部、魚津、宇奈月の辺りを中心にして、北方領土から帰った人たちがいっぱいいるということを見ると、当然そういう声が収録されるのでしょうけれども。しかしながら、越中衆が開いたこの北方領土、恐らくこの北前船の航路の中に全部越中屋さんという人がいるのではないのでしょうかね。そういう時代でやってきたわけでございます。

一番多いのは、やはり歯舞群島と国後島です。今、全体を合わせて1万6000~7000ぐらいの人がいることになっています。これは分からないのです、あそこの国の人口統計というのは本当に、中国の人口だって分かりませんでしょう。日本は今日現在1億2千何百何十何人という数字が出ますけれども、あそこはアバウトでございますから、夏になると魚を捕る人がたくさん来たりして、今ごろになるとみなどこかへ行って、そういうところですからあまり人口は当てにならなりません。かつて日本の時代には、1万7000人いたわけですから、あとほんの少しで日本時代を超えるかもしれません。これは大いに注目すべき数字かもしれません。ただ、私は超えないと思います。

というのは、ロシアは今大変なのです。1991年12月27日にソ連邦が崩壊して、それからめちゃくちゃ悪くなりましたよ。そのころもしょっちゅう行っていましたから分かりますけれども、昼飯を食うのが大変でしたよ。食べる場所がないのです。とにかく物が無いのですから。どこへ行っても行列です。あの国の人たちは行列で並んで、飯を食ったら、また並んでいないと次の飯に間に合わないのではないかと、というぐらい長い行列を並んでいましたね。

そういう時代にマクドナルドが出て来て、「ほーっ、世の中にこんなすごい物がある」、と彼らはびっくりしたような時代です。今は、掃いて捨てるほど、あの国にもマックがありますけれどもね。とにかく、そういう時代に、随分あの国は弱気になりました。そのときに誰も実は分からなかった、今になれば悔しいという以外ないですが、あのころもうちょっと日本が強くと出ていれば、あのころ北方領土返還要求運動が終わって、今日、皆さんたちが、こんなまずい顔を見ないで済んでいたかもしれないのですよ。

というのは、エリツインの初期、何とか向こうはこの窮状を救う国は、日本ではないかという思いを日本にかけた時期があるのです。ここは残念ながら逃しました。まさか、あの国が言うてくることが、ということとエリツインそのものの健康もありましたよ。エリツインの健康が悪くて、それから議会とうまくいなくて、与党が一遍にがくと減ってしまったということがありました。

最初は92年に来るはずだったのです。宮沢さんのときに、4日前にドタキャンというのは失礼です。し

かし、それも仕方がなかったですね。その日までの下打ち合わせが進んでいなかったのです。

それで、1年後の93年10月にやって来たのです。これはまた1週間前に、あのホワイトハウスと言われた白いビル、議会だったのですが、ここに戦車で攻撃をするというのだから、すごい国ですよ、日本では考えられませんでしょう。国会で、民主党が強そうだからというので、麻生さんが自衛隊で、あそこを撃てなどということはあり得ない。あの国はそういうこともある国なのです。それで一応エリツインが勝って、1週間後にまさか来れないと思ったら、今度はそのときはちゃんと日本にやって来たのです。

だから、そのときに日本がきちっとやったから、これは日本が勉強しました。ここはきちっとやらなければいけないと、それでできたのが東京宣言です。これがエリツイン時代の日本で一番の成果です。このパンフレットにさらっと書いていますけれども、一番最後に書いてあるのが一番大事なことで、開いて93年10月東京宣言と、このプリントの中で一番大きな字があります。

「首相と大統領は、国際関係における困難な過去の遺産は克服されなければならないとの認識を共有し、択捉、国後、色丹、歯舞の帰属に関する問題について真剣な交渉を行った。双方はこの問題を三つの原則で解決することにした。第1番、歴史的、法的事実。第2番、両国の間で合意の上作成された諸文書。第3番、法と正義の原則。これを基礎として解決しよう」。これはもう事実上日本に返すということ、このときに発表しているのと同じなのです。

そうでしょう、歴史的、法的事実。歴史的だけで決まってしまうのです。つまり、一度もここはソ連やロシアの領土だったことがないのです。この四つに関しては、一度もないんですよ。1分間もないのです。多少でもあったなら、あのとき本来はずっとうちのもだったはずだったと言えるのですが、それがありませんから。

先ほど言った、1945年（昭和20年）8月28日に、いきなりこのルベツ村に上陸して来たのです。このときは戦争はないのです。日本も静かにやって、軍人が出ていってお迎えしたわけではないのですから。ですから、一度もソ連やロシアの領土でなかったところを、いわゆる固有の領土、英語で言うと日本のオウンプロパティというのです。日本自身のものなのです。

それから、法的事実ということは、これも今さら延々と言う必要はないと思います。両国の間で合意の上作成された諸文書というのが、そもそも1855年の安政のときの条約から始まって、次々とあるのです。ただ、こうなってくると向こうは曲解するのです、すごいです。

この間も先ほど言ったポノマルフというのはすごい資料を作ってやって来ましてね、1905年（明治38年）日露戦争、この9月5日にポーツマツ条約というのが結ばれて日本とロシアとの戦争状態が終わりました。そのときに日本は、樺太の真ん中北緯50度から南の割譲を受けたのです。無賠償で領土だけもらう。

そのときに、千島列島やこの北方領土については何も触れていない、当たり前です、その前に全部決まっているのですから。そこを触れていないから、ここは帰属未定のところであったのに、日本が勝手に占領していたのだと、そう書いた資料をサハリン州政府発行の本でちゃんと出しているのです。それを大量にロシア語と日本語で印刷して、北方領土ビザなし交流などに行くとそれを皆さんに配られますよ。

ですから私が12月に行ったときに、会議の公の場ではっきり言いました。こういう不屈きなものを作るならば、そのときにモスクワはこの領土だと、そのポーツマス条約で触れていないから、不法にモスクワをロシア人が占拠していたということになるんだと言いました。そういうことを言わなければいけないというのは実にくだらないです。

本当に学術会議の顔をしています、実際はやくざの果たし合いのようなものです。きっと向こうは私のことをやくざと言っていると思いますけれどもね。そういう次元の低いことが非常に残念なのです。そういうことがしばしばあの国との間であるわけです。今回、一番問題になっているのは、一つは鳥取県境港の第38吉丸というカニ漁船が拿捕されました。まだ向こうに捕まったままですから。

これは実に難しいんですね、複雑な海上の中のあっちへ行ったか行かないか。ただそれを警告もしないでいきなり連れて行くのですから、あそこの場合は。これはやはり海洋に関する国際条約には違反していると思います。日本は丁寧に警告するのです。北朝鮮の不審船のときだって、まず日本語、英語、朝鮮語、中国語で放送して停まれとやって、停まらないとすれば当たらないように、えい光弾を撃って、それから船に当たらないように実弾を撃って、それでも停まらなかったら撃ったわけでしょう。向こうはいきなり捕まえて行くのですから。これは非常に困った習性の国でございますけれどもね。

それが、その後、つい先だって3日ほど前に、ビザなし交流の枠を使って、これでもって国後島のフルカマップに行った、日本の人道支援をやっている人たちに、入国カードを書けと言うのです。これも実は先月のサハリンフォーラムで、向こうがちゃんと言って来ていたので、その場でもちろん大反論しました。

これも変な話でございまして、向こうがそれを言ってきたのは、国立サハリン総合大学の学長、ミシコフさんという私の一番親しい人です。およそ北方領土のことなんて言わない学者さんです。この人の論文の最後に、なぜかいきなり「2009年1月1日から、この4島に来る人には入国カードの提出を求めることになった」というのだけぼんと入っているのです。全然前後関係がないのです。これは恐らくKGB系統の人が付け足して書かせたものでしょうね。

ですから、当然その論文に対抗する論文を、ぼく書いたものですから話しました。どうも、前後関係と文章的につながりませんが、ここにこうありますが、あなた方は本気で書いたのですかと言うと、本人は何も答えられないのです。それで、そういう方の筋の人が、ちゃんとそれに対して答えて、「これは決まったことだ」と言うのです。

勝手に国内法で決めたから、それを実行するということはまかりならん、今まで16年間

にわたって積み重ねられてきた、日本とのビザなし交流の伝統をこれで壊れますと。それで日本側は絶対に入国カードは書きませんと。その結果ビザなし交流がストップされても仕方ないということは、その場では言いませんけれども、前もってちゃんと外務省の人と打ち合わせて、きちんとやってまいりました。だから、予想されたことで外務省側もびっくりしません。

したがって、入国カードを書かせるのであれば、帰ってこいということは初めから分かっていたことなのです。つまり、ここで入国カードというのは小さな紙ですけども、小さな紙の大問題でございまして、ここで入国カードを書くということは、そこに入ることが外国であるということを確認するということになるわけです。

このビザなし交流という言葉が実は私は嫌いで、ずっとこれを変えろと言っているのですが、いかんせん最初の人間違えたものですからずっとそのままです。これはビザなしではありません。皆さん、観光旅行で行くのは、韓国へ行くのだってグアム島へ行くのだって、台湾へ行くのだってパリへ行くのだって、ビザは要らないでしょう。

これはビザなし交流とは言わないです。この北方4島へ行くのは旅券なし訪問なのです。パスポートが要らないのです。日本人が富山へ行こうが東京へ行こうが、パスポートは要らないでしょう。そういうことをちゃんと決めてあるのです。ですから本来であれば旅券なし交流と言うべきところを、たまたま最初にビザなし交流と言ってしまったのですから。つまり当時は、ソ連もビザを取るのが大変だったのです。今も結構大変ですが、しかしながら、当時はもっと大変でしたし、島などは簡単に行ける場所ではなかったのです。

そんなこともあって、ビザなし交流ということが、もしかしたらこれで終わってしまうかもしれません。終わってしまうかもしれませんが、それは日本が主権について軽い気持ちで妥協してはならないということと同じでございまして。これはさらに慎重に向こうを説得していく必要があります。これは絶対説得できると思います。つまり、モスクワの雰囲気と現場の雰囲気があまりにも違うからです。モスクワは今、日本に対して必死なのです。

今週末でしたか、小泉さんが日本の財界人を連れて、ただ財界側がちょっと逡巡していますから、随分スケールが小さくなると思いますが、モスクワに行きます。それで、今月の中旬にももしかしたら、麻生さんがサハリンに行きます。メドベージェフさんとあそこの、要するに石油の備蓄基地ですが、これまた面白いところで、日露戦争のときに日本は明治38年（1905年）7月3日に、大泊といっているところで今はコルサコフというところに上陸したのです。これも砂浜でね。

上陸して、当時はそこはロシアの本土ですから、ロシアの本土で一度勝っていないと日本はポーツマツの交渉は弱いのです。これは児玉良雄総参謀長の発想で、それで強引に攻めて行ったのです。攻めて行ったといっても、日本軍はほとんどいなくて、この近くの鯖江の軍隊の、すでに攻めて行って負傷して帰ってきた、日本にいる人たちに鉄砲を持たせて、それに弘前の第1師団の本部にいた人たちを少しつけて。だって向こうはほとんど兵隊がいないからね、それで上陸したところなのです。

ブリゴドノエというそのの浜辺に、すごい立派な備蓄基地を作ったのです。作ったといってもロシア人が作ったわけではなくて、金を出したのはロシア人というべきか。ロイヤルダッチシェルが主たる金を出したのですが、あとは日本の三菱、三井が金を出して、一番北の方から 800 キロのパイプラインを引っ張ってきて原油をそこに運んで備蓄して、そこから日本や中国、韓国に原油を送っている基地です。その上陸記念碑は今でも倒されたままありますが、その隣がその工場になっています。素晴らしい工場です。

実際に作ったのは、トップだけが日本人で、あと請け負ったのはトルコの会社です。7000 人ぐらい働いていますけれども、その実に大部分がエクアドル人とか、ネパール人という人たちで、不思議な作り方をしていましたね。現地雇用のロシア人が 70~80 人ぐらい、去年の 12 月 12 日に建て、工場を引き渡したものですから、今、サハリンはバブルが崩壊したようにへなへなになっています。

ところが、それはロシア全体がへなへなのです。原油価格が一番高いところから、3 分の 1 になりましたでしょう。ルーブルも急落しているのです。今、世界大恐慌の話が日本にいと、せいぜいトヨタの工場が少なくなったとか、どこそこが生産調整したとか、日比谷公園で何人泊まっているという話になりますけれどもね、世界的に見るとまだましな方です。

ロシアは大変です、すどんというような感じです。われわれは反対に今こうやって今、90 円もしないドルでしょう。海外に行こうと思えば行けるじゃないですか。富山に来る方がよっぽど高いというくらいで、日本はこれでも世界的に見るといいのです。アメリカも大変です。しかし、ロシアはもっと大変です。

石油、天然ガスだけに頼っていたのですから。これがこうなってしまったために、ものづくりが全部壊れたのです。メイド イン ロシアという物を皆さん何か知っていますか。皆さんが買えそうな物でメイド イン ロシアは、マトリョーシカだけです。あのお人形、あれはそもそも日本の物を真似したのです。そもそも日本の箱根の組み込み人形を向こうの人が真似して作ったのです。あれぐらいのものです。

あとは、メイド イン ロシアのテレビだカメラだってあり得ないでしょう。トラクターとか自動車とか、それは作っていますが話になりません。だから、彼らは先ほど議長から伺ったら、このごろは、あまり木材も来ないし車も行かなくなったそうです。それでも行けば、極東地区の車の 95% は日本の車です。あとの 4% ぐらいは韓国でヒュンダイですよ。ロシア製の車なんて恐らく 1% じゃないですか。

ですから、みんな右ハンドルで右側通行しているのです。危ないったらありやしないですよ。そういうことで、しかも日本でいう中古車よりも古古車ですよ。5 万円とか 10 万円です。これがこの辺をいっぱい走っているのです。

そうやって石油、天然ガスがどんどん下がり、それからルーブルが下がってくると、やはりあの国の経済はバブルの崩壊と同じです。資本がみんな逃げていくのです。それでも、あの国の分からず屋の経済学者たちは、われわれに言います。「早く日本よわが国に投資し

なさい。バスに乗り遅れる」と。どうぞバスは行ってください。日本の東京の山手線というのは、大体1分50秒でその次の電車がくるからどうぞと、発進間際の飛び乗りは危ないと。毎日そうやって電車ごとに警告を発しているから、どうぞ電車でもバスでも行ってくれて結構ですと、今日まで来てあまり日本は投資していないのです。

うまくいきそうだったので、一生懸命財界に働きかけてトヨタが行きましたけれども、トヨタが行っても、まだまだ全然小さなもので、あそこで広大な土地を使って、主に売っているのはヨーロッパにトヨタの車を売るための基地にしているのです。うまくいっているのはほとんどありません。ウラジオストクに、ご当地の橘康太郎さんですか、ベルサイユホテルというのは唯一うまくいった例外中の例外じゃないでしょうか。

そういっちゃ悪いけれども、あの程度です。ほかの、つまり工場とか何とかラーメン屋さんに至るまで、みんなつぶれたり死んだりしています、不慮の死を遂げたり。いよいよ開店の日になったら、アムール川に死体になって浮かんでいたなんていうのは、『シベリアラーメン物語』というすごい本があります。その人のお父さんが許せないというので、定年間際に会社を辞めてラーメン屋の修業に行って、それでやったら、すごく成功したけれども、ある日やめたと引き揚げて帰って来ましたがね。

付き合いにくい国です、あの国は。つまり日本人と基本的なものの価値観が違うのです。ですから、北方領土の問題でいうならば、日本は4島というのは掛け値なしなのです。4が3になったり2になったり1になったり、0.5になったりという話ではない。バナナのたたき売りとは違って、正札商売をやっているのです。ところが向こうは全然そういうところはどこにもないです。

何のことかというところから交渉しなればいけません。メーターはメーターでありますよ、そんなもの論外です。これは壊れているのですと、うそこけ。全然話にならないです。そういう国と交渉するというのは、やはり大変ですよ、簡単にいかないです。べらぼうなお値段を言って、バザール商法で、バナナのたたき売りで、だんだん下がります。じゃ、やめたとすると、すぐ向こうは、「ちょっと待て話がある、君のロシア語が分からなかったから」と、うまいことを言って。字を書いて渡しておいて何でロシア語が関係あるか。

それぐらいの国と交渉をするという覚悟を、われわれは持っていかなければならない。ですから、こっちがどういう国であるかということ、分からせなければしょうがないです。日本語でいくら北方領土を返せと言ってもしょうがないから、われわれはロシア語のものをたくさん作っているのです。ユーラシア21研究所理事長と私の紹介が、今、大野県議からありましたけれども、こんな研究所は誰も日本では知りませんが、ロシアでは結構知られているのです。

というのはロシア語のホームページを出している、唯一の日本の団体なのです。その代わり好きなことを書いています。露鵬だ何たらかたらは、麻薬で捕まって追われたと。「あれは日本人がやらせたのだ」と、すぐ反応が来ます。「その証拠に1人も日本人の力士

が引っかかっている」。私は若麒麟に感謝します。日本人だって引っかかるんだと。変な話ですが、そういうことを言いたいくらい、つまり彼らは何でも陰謀だと思うのです。そうではないのです、引っかかるやつは引っかかるのです。

その点、日本の警察というのは、好き嫌いは別として信頼します、信用します。向こうの国へ行ったら絶対信頼できません。ですからモスクワで車に乗るときは、国際免許証の下に必ずブルー札を入れておいて、検問というところと見せるのです。そこだけ抜いてあっちへ行けと言いますからね、すごいもんです。ですから給料日が近くなったら、絶対運転しちゃいかんよと、日本人同士で言っているくらいですから。

そういう国と交渉しているということを、われわれは重々承知しなければいけないですね。そういう、あまり荒っぽい話ばかりしていてもしょうがないですが。これで恐らく順調にいけば、2月に麻生さんがサハリンに行って、あまりいい格好しないでくれた方がいいです、強く出た方がいいです。そして3月にプーチンが日本に来るのです。順調にいけばですが、これは、順調に行く可能性は少ないですね。

というのは、日本の政局の不安定というのもあるのです。日本は今、政局の不安定がどれだけ日本の国益を損なっているか、まともにできないのです。しかも、現職の総理が誰ということに限らずみんな支持率が低いでしょう。野党の方だって別に支持率が高いわけではないですよ。みんな低いです。そういう状態になって、国民の多くは政治的な 이슈に無関心になってくる。そこでなんとかして、みんな人気を上げたい、今、一番人気上がるのはワシントンに行って、オバマさんと抱き合うことが一番人気上がるのでしようけれども、100 日間は向こうはそういうことをしません。そうするとその次ぎに誰だと考えて、胡锦涛じゃややこしいから、やはりプーチンかなと思ってやられた日には危ないです。

そういうことに関係なくのんびりやればいいのです。この領土問題は焦った方が負けなのです。健康に気を付けて長生きする方が一番いいのです。ソ連邦が崩壊してから、まだせいぜい17~18年です。ソ連邦が崩壊する前は動かないのが当たり前だったのです。これは分かっていることです。つまり米ソの冷戦でしょう。冷戦のときに妥協した方が負けなのです。これは絶対にあり得ない、従ってまっとうにこの北方領土問題ということが動き出してから、まだ17~18年なのです。われわれは1973年から専門家会議というのを26回、来月が27回目を東京でやるのですけれども、ずっとやってきました。

最初のころは北方領土問題は、「これは解決済みですよ」と向こうは実に素っ気ない対応でした。それに対してこっちはどう言ったかという、「解決済み、なるほど。その解決済みというのはいつどこでどうやって解決したのだ」と、われわれは質問しました。答えられません、解決していませんから。解決していないものを向こうは解決済みだと言ったから、向こうのトップが全然答えられないのです。

向こうも知患者はいるものです、「そういう問題はない」「解決済み」から変わったのは70年代の終わりです。「両国間に領土問題はない」。ないと言うのですから、ないとあるの

話し合いになりました。そういう時代が10年くらい続きました。それでソ連邦が崩壊してから、こういう問題がどういう問題であるかということ、われわれが強く迫った。その前にゴルバチョフのときに、アレキサンドルヤコブレフというナンバーツーがいてこの人はしっかり者でした。

ブレジネフに徹底的に嫌われて、カナダの大使を13年もやったという人ですけども、さすがにスマートな人でして、この人が、「とにかく何とかゴルバチョフを日本にやる」と、つまりあの国の元首で初めて日本に来るといふ人がゴルバチョフでした。91年4月13日、この人が来たときの共同声明に、とにかく4島の名前が入ったのです。

つまり、あるの無いのと言っているのが、あることを向こうが完全に認めて、その代わり4島だということなのです。4島という名前が、そこで挙がったのです。ここで日本は完全に正札商売になったのです。このときにある人は、全千島を言うべきであったという人もいます。ある人というのは、はっきり言いますと日本共産党さんです。日本共産党さんは好き嫌いは別として、今も「北方4島の問題ではない」、先ほど言った、占守島までの返還を要求すべきだと言っております。理論的には私は正しいと思います、純学術的に。しかしまったく不合理です。

というのは1952年4月28日発効のサンフランシスコ講和条約（1951年9月8日調印）でもって、日本は放棄してしまったのですから。ですから、それをやるためにはもう1回、第2次サンフランシスコ講和会議を開かなければいけないのです。それで、サンフランシスコに集まるかどこに集まるか分かりませんが、そんなもので人が集まってくれるかという話です。

それで日本側の主張はこうこうですと言わなければどうにもならないという、あまりにもリアリティーのない現実感のない主張を、日本共産党さんが、皆さんの中には好きな人も嫌いな人もいるかもしれませんが、そういうことを言っているわけです。そのほか日本政府としてはまさに正札商売、4島なのです。

ですから四つに絞って議論しようということ、ゴルバチョフとやったからも向こうも乗ったのです。それを踏襲したのが東京宣言です。しかも、日本側は択捉島から名前を書いて、択捉、国後、色丹、歯舞という順番に書いたのです。歯舞、色丹の二つは解決しているのです。1956年10月13日の日ソ共同宣言です。あのとき日ソ平和条約になっていたらもう終わりなのです。

共同宣言でもって、あのときには最後に抑留されていた1000人ちょっとの、いわゆるシベリアで抑留された方々が帰ることと、それと日本の国連への加盟の二つ、そして日本とソ連が国交を開くことによって、両方の首都に大使館ができるということをやるといふものであって、一応戦争状態は終わりにしたのです。

しかしながら、そのときに領土問題が解決しなかったからこそ、日ソ平和条約にならないで日ソ共同宣言になったわけですね。そのことも全部向こうは分かっているのです。分かっているけれども、向こうは自分からそういうことを言える国ではないです。4島を日

本に早く帰すべきだと言う人がたまにはいます。ヤ布林スキーなどという人はその典型ですけれどもね。

そういう人を少しずつ、ないしは絶対反対だと言わない人を、少しずつ増やしていくことが時間のかかる問題です。ですから、われわれはロシア語でホームページを開きました。プーチンも読みました、プーチンの密使というのが来ました。よくしゃーしゃーと来るなと思いますね、言うことがすごいのです。「このホームページは素晴らしいから、日ロ共同でやりましょう」と。あの国の共同というのは、要するに勝手にそこに自分たちの主張を載せろと言うことなのです。金を半分ずつ出すというのではないのです。

北方領土を日本と共同開発しようというのは、何のあれもないです。全部そのまま、ここを自分たちの国の領土だと認めるならば、日本に金を出させてやるよ、開発させてやるよという話なのです。だから、軽々に乗れないのです。反対に4島を日本の領土とするよと、その上で共同開発しようと言うのであれば、どうぞあなたの国から半分出しなさい、いくらでもしたいことを、やらせてあげますよということをわれわれは描いているのです。

先ほどの米田さんの作文の中にあった、「今、あそこに住んでいる人たちのことを考えなければならぬ」、これは本当ですよ、もう60年以上経っているのですから。親子4代などという人もいます。この人たちをわれわれは島が帰ってきたときに、再び放逐するならば、つまりかつて日本人があそこから放逐されたことと同じことを日本がするならば、これは世界で日本が笑いものになります。この21世紀になって、そういう非人道的なことをするわけにいかない。だからわれわれは島が帰ってきたらどうすればいいかという研究を何度もやりました。

それについての、こういった原則は必要であろうということも並べて、それもロシア語にして向こう側にも印刷物でも、それから島の役場のようなところの掲示板にも張り出し、説明会もやりましたよ。そういうことについて向こうも随分、現実の問題として分かってくるようになりました。しかし、難しいのは経済格差ですよ。確かに、今あの島は少しずつ発展していますよ。少しずつ発展したといっても、富山から見たら天国と地獄です。ようやく電気がつながったということで心配するのです。

国後島で停電がほとんどなくなったね、たかがその程度です。富山で停電が前にあったのはいつですか。それは地震か何かでたまに消えたということはあるかもしれませんが、今、サハリン本島だって、われわれが会議をやっている最中に、2日間のうちに4～5回電気がいきなり消えるのです。そうするとコンピューターを使っている人はどうするのですか。サハリン本島でも、そういう体たらくです。

ましてその先の島です、国後島によりやく1カ所だけ街灯がつけました。街灯がついてどんどん発展して、あの島が日本に帰ってこなくなるのではないか。そんなことを気にすることはいいですよ。そんなのは小さな話です。日本中街灯がついているじゃないですか。私の田舎の秋田でさえ、街灯もついているればネオンもありますよ。そういうことを思うと全然心配することはないと私は思っております。

さて、昨今、先ほどの原油価格の高騰とルーブル安で、普通からいうと製品を輸出しやすいのです。しかし、売るべき製品がないのです。モスクワのスーパーマーケットへ行くと、売っている物のほとんどすべてが外国製です。中央アジアであったり、ポーランドであったりチェコであったり、遠いところではベルギーとかオーストリアから、延々と大型トラックで持ってくるものをスーパーに並べているのです。フィンランドやスウェーデンからもいっぱい来ています。そのぐらい産業が崩壊している国ですよ。

それらの国から見て、一番補完性の強い国はどこかという日本なのです。これはクレムリンの中で出ている社内報のようなものに彼らを書いて、ちゃんと理解しています。つまり、日本には資源がないから、わが方から売物はちゃんと買ってくれる。日本にあるものは高い技術、それから日本の軍隊、彼らからすれば自衛隊なんて言いません、軍隊ですからね、再びシベリアに攻めてくることはあり得ない。それは能力的にも法律的にも世論的にもあり得ない。従って、こんな安全な国はない。

それから彼らに言わせれば、日本は市場としてはめちゃくちゃ金がある。確かに、外貨はありますよ。日本はそう心配しなくてもまだまだありますよ。そういう国になると、一番大事な国になります。しかもロシアはアメリカやヨーロッパとは、この間グルジアであれだけでもめているでしょう。そのほか、いろいろなところでさまざまな国際政治上の問題を抱えています。しかし、日本とはありません。

特に、かっかしているのは、チェコやポーランドで、いわゆるMDといっているミサイルデフェンスです。ミサイルがすぐ届く、ついこの間まで自分たちの衛星国だったところに、アメリカのミサイル基地ができてくるということです。それから、NATO（北大西洋条約機構）がどんどん東に行って、グルジアやウクライナをも入れ込むかもしれない、EUが広がっていくかもしれない。そうなったら全ヨーロッパの中で、ロシアとスイスだけが孤立する状況が出てくるわけです。

スイスは初めから積極的に孤立しているのですからいいのですが、ロシアがヨーロッパから孤立したら大変だということになるわけです。するとヨーロッパに対して取引できるものは、パイプラインでもって石油、天然ガスを送る。これをどう締めるかというのが、彼らのうちで一番外交と産業の芸術作品をやっているわけです。ですから、グルジア問題やウクライナ問題が大変シリアスになっています。

他方また、南からの脅威があります。これは北オセチアにアブハジア、コーカサス地方からさまざまなトラブルが起こっています。それから、そういうところからテロリストもモスクワに入って、さまざまな事件が起きてまいりました。

それから、中国との関係。中国というのは何と言ったってロシアにとって潜在的に一番の脅威です。一つは、人口がまるで違うのです。シベリアはウラル山脈から東のことをシベリアというのです。この全部の人口が北海道よりちょっと多いくらいですよ。北海道に富山県を足したらこっちの方がちょっと多いです。あの広いところにです。ベーリング海峡まで全部入れて、サハリン州も北方領土もウラジオストクもハバロフスクもイルクーツ

クもクラスノヤルスクも全部入れても、それでもとにかく人口が北海道よりもちょっと多いくらいです。しかも、さらに毎年 30 万ぐらい減っているのです。

それはそうでしょうね、産業も何もない零下何十度というところで、石油を掘るため、ないしは希少金属を採るためにいる人たちです。そんなところで働くよりは、あっちへ行った方がいい。ですから、今、シベリアその他で持っている生活苦というのは大変なものです。それはそうです皆さん考えて見なさい、零下 30~40 度です。つい 12 月 3 日ごろヤクーツクに行ったところですけども零下 60 度でした。零下 60 度、タオルを絞って乾かそうと思って表に出して、いろいろなものを並べるうちに凍ってしまって開けられなくなってしまふのです。零下 60 度で何とかをすると棒になるという話がありますが、あれはうそです。

中国というのはやはり、人口が多いですから最大の消費国なのです。ただし、中国が一番ほしいのは、ロシアの武器です。F22 に対抗し得る武器を売ってくれそうな国は、ロシアしかないのです。しかし、ロシアは絶対に売らないです、自分の国が怖いのです。ですから、中国に売るのは常にロシアの 2 番目ぐらいの武器です。中国が仮に優れた武器を手に入れることになると、台湾にアメリカはすぐ優れた武器を売ります。これは仕方ないです。そうやって怖がっていくことになるから、それをストップするのはロシアであります。

そういうことで中国人が、シベリアにどんどん入ってくるのですが、今、おそらく 80 万人ぐらいいるのではないですか。中国人がいろいろな形でシベリアに入ってくる。人口が減っているのですから、3K をやる人がいないのです。実は中国が、ちょっと今増え止まりなのです。北朝鮮から木材の伐採とかでいっぱい来ているのです。北方領土にぼくが一番最近行ったのは 2 年前ですが、北朝鮮がいました。てっきり日本人だと思ったけれども、日本人がいるわけがないからと思って朝鮮語で話しかけたら、すぐ向こうが応じました。

今、サハリン州全体で、3500 人の北朝鮮労働者を雇っているのです。これは 5 年間の契約を結んで。契約社員ですから、日本みたいにいつでも切れるのかもしれませんが。しかしとにかく 3500 人がいます。水道一つ止まっても、来るのは北朝鮮人だそうです。これは北朝鮮にとっては外貨を稼ぐ一番いいところです。というのはサハリンの島には朝鮮系という人たちが、韓国、北朝鮮合わせて 4 万 5000 人ぐらいいるのです。

これはかつて、戦前日本が強制的に連れて行った人がいますけれども、そうではなくて一旗組で行った人がたくさんいるのです。王子製紙の工場だけで九つあったのですから。それから炭坑がたくさんあったので、そこで働く人をどんどん韓国から募集して連れて行ったのです。この人たちが強制的に連れられていかれた人もいるし、希望を持って行った人もいるわけですが、とにかくどういう動機であれ、血統的に朝鮮、韓国人は、戦後に帰してもらえなかったのです。強制残留させられたのです。これは実に気の毒です、強制残留です。

その人たちが、まだそのほとんど大部分はサハリンにいざるを得なくています。それこ

そ3世、4世がいっぱいいます。そういう人たちが北方領土にもいます、北方領土で生まれた人さえいます。しかし、この問題は今や国際的な問題になりましたから、ひとところから比べるとロシアも非常にこの問題に柔軟な態度でもって人を帰すようになってまいりました。

もうそんなに時間がないようですから、少しまとめに入ります。日本の中にこのごろ、いろいろな北方領土論があります。とにかく日本人はどうしてこんなに短気なのかと思うぐらい、私などは東北の出身のせいか、のんびり過ぎるのかもしれませんが。とにかく二つでもいいから返してもらったら、それでいいじゃないかという人がいますが、これは大間違いです。

二つ返してもらったら、そこで平和条約を結ばなければいけないのです。今は平和条約がない状態だっているのに、そんなに向こうは交渉に乗らないでしょう。平和条約を一度結んだら、もう乗ってきません。それから平和条約を結んだら、あそこの国の憲法でもって、領土を割譲するには国民投票しなくてはいけないと書いてあるのです。国民投票したら、あおりにあおられてそれはもう不可能です。

ですから、2島ということをやるとしたら、これはもう1956年（昭和31年）に終わっている話なので、これは絶対ないことです。3島と言う人もいます。小学校しか行っていない人ではないでしょうか。4島とこっちが言って向こうが2と言うのなら真ん中で3でいいと言うのは、これは大間違いです。そんな簡単なものではないです。先ほど言った東京宣言で見てください。この三つの原則でやると決めたのですから、その三つの原則でやればいいのですよ。日本に弱みはないのですから、この話は。

それから、面積で半分に切れればいいと言う人がいますね。これは中国とロシアが、300ぐらいあった領土問題の最後の三つをそうやったのです。これは小さな川の中州です。川の中州というのは川の主流の真ん中を持って国境とすると決まっているのです。ただ、川ですから第一動くわけです。しかも、どっちかの固有の領土というのではないのです。何かぐちゃぐちゃあっちへ行ったり島の形が変わったりでしょう。海拔ゼロメートルばかりなので、

それを最後に300のうち297がちゃんと解決して、ほとんど全部中国領になったのですけれども、残った川の中の三つの中洲をそうやって割ったというだけのことです。これと北方領土はまるで違います。つまりこちらは最初から島なのです、れっきとした島で、ここに出ているシリップ山なんて、本当にきれいな山です。こういう1500メートル級の山もたくさんあります。チャチャ岳なんていうのはきれいな山です。

そういうしっかりした領土であって、日本側が譲らなければいけない根拠は何もないのです。それとともに3島だ、面積だというのは東京宣言の原則を、日本から放棄することなのです。これは今度、寄ってきたゆえんの橋頭堡を日本が失うということになりますね。これは私はいけないと思います。

とにかく日本は、4島返還で平和条約ということをお願いしなければいけません。ロシ

アは日本がくたびれるのを待っているのですよ。富山県民大会なんて開かれなくなるのを待っているのです。開いても、ほんの最前列に4～5人ぐらい来て、寂しい状況になるのを待っているのです。

そして、日本での返還要求運動の様子はちゃんとモスクワに知らせが行くのです。この中にスパイがいると言っているわけではないのです。不思議なものでちゃんと行くのです。

われわれがモスクワへ行くと、「あなた2月1日に富山ですごいことを言っていましたな」と、言うのです。不思議な情報の国です。どこかこの辺に隠しマイクがあるのではないですか。皆さんが知らないうちに、隠しマイクをハンドバックに入れさせられていたとか、それは分かりませんが、実に不思議な国です。私は別に悪口を言っているのではないですよ。こういうものだと言っているつもりです。

ロシアが絶対に領土を返さないなどということはありません。アラスカを7000万ドルぐらいでアメリカに売りました。あれはロマノフ王朝が貧乏なときに、困ってしまってあれを売りましょうと、売りましたよ。中国とだってそうやって300の川の中洲がほとんど向こうに渡しましたでしょう。それから、旅順、大連だって返しましたでしょう。フィンランドではボルカナ基地という大きな基地をフィンランドに返しました。それからデンマークにはブルンフォルム島というやはり北方領土と同じように戦時中に取りれた島をちゃんと返しました。返さない国だなんていうのは、うそですよ。それを返した方が自分が得だと思っただけです。

それから、日本とロシアはいろいろな意味で、今、比較的いいのです。一昨日あるテレビ局でしゃべったときに、そのキャスターが青年会議所の北海道の北方領土委員会の委員長を数年前にやっていた人ですが、浜口という彼が「最近、日本とロシアと随分近づいてきましたね」と、いきなり言われたから、それはちょっと違うぞと言ってしまいました。近づいたのではないのです、確かに向こうは近づきたい気持ちはあるのです。先ほど言ったように、何とか日本を自分の方に引きつけたい。こっちは別にそんなに引きつけたいと思っているわけではないのです。焦ってはいけません。

今、日本とロシアとが仮にビザなしが切れるどころか、国交断絶ということになったって日本はあまり困らないのです。だから、われわれは強く言えるのです。これは、日本と中国はそうはいかないから簡単に言えないのです。ですから、日本はあまり弱気になって、けんかすることは何でも悪いことだと思わないことです。けんかしてこそ地固まるということはいっぱいありますし、それから言うべきことを言わなかったら、日本は世界中からなめられます。あの国は、国民の悲願のなんのなんのと言っても、あっさりやめちゃったじゃないのということは、今後、日本が何かで主張するときに真に弱くなりますね。ですから、毅然たる態度を持つべきです。

話が分からないにしても、あの国も人間です、言えば分かるのです。それをわれわれは積み重ねていくしかありません。だって、日本のことを分かっていますよ。向こうの、日本で言うと衆議委員外交委員長に当たる人、マルゲロフさんという人に、日本の人口はど

のぐらいだと思いますか。ロシアの人口を10としたら日本はどのぐらいだと思いますかと
言ったら、うーんと考えて「1ぐらいですかね」と言いましたからね。日本とロシアの人口はほとんど同じなのです。

しかも、向こうの方が少子化が日本よりもっと進んでいるのです。恐らく10年たったら
まったく同じになるのではないですか。日本の少子化のスピードよりも、向こうの方が速
いのですから。面積で見るといかにも向こうが大きい、45倍もありますから、それは大きい
です。ソ連だった時代は60倍あったのです。しかしながら、そんな大きな国ではないです
よ。しかも、大男総身に知恵が回りかねの口でして、あちこち問題だらけなのです。日本
がすごい国とやっている、怖いとあまり思わない方がいいですよ。

ただ、そう強気ばかり言っていられないのは、日本ではやはり北海道の疲弊ぶりです。
富山県のもう一つの日本一は、日本で一番住み良いところでしょう。これは北海道から見
たら、うらやましいですよ。どんな統計を見たって福井県と富山県はやたら住み良くて、
私の古里は反対に学力試験日本一で、この間は体力試験も福井の次ぐらいに良いのですけ
れども、自殺が日本一ですしね、脳梗塞が日本一ですから、容易じゃないところすけれ
どもね。富山はそういう意味では、住み良いところでしょう。

北海道はそうはいきません、どんどん人口が減って、先週の今日、ぼくは札幌でしゃべ
っていましたが札幌はいいです。札幌は富山よりもあるいは景気がいいかもしれま
せん。しかし、ほかはもう駄目です。その札幌だって行った日は大雨で、雪祭りの雪像が
全部へなへなとなって、どうするのか3~4日後に迫っているのですけれども、どこかか
ら雪を運んで来るのでしょうかけれども、地球の温暖化でしょうね。今ごろ富山で雪が積も
っていないというのですから。それはともかくとしまして、今、札幌以外の北海道は、か
わいそうなぐらいひどいです。そうなってくると、島が帰ってきたからといって直ちに島
が大発展するとは私は思いません。そういうことではないのです。

要するに、島は金とか利益ではないのです。日本人の矜持が問われているのです。主権
問題ということはそういうものではないのです。親代々ああやって開いてきて、高田屋嘉
兵衛以下みんなで頑張ってきたところを、理由もなく人の国に取られるというのが、いか
んということなのです。そこのところをよく言ってあげないと、分からないことだと思います。

従って、4島返還は国是でありまして、2島先行ということがたまに言われますけれど
も、それは他の二つを永久に失うことでもあります。それから、第2番目に書きました齒舞、
色丹というのは4島全体の7%なのです。それで妥協するというならば、50年前に共同宣
言ではなく平和条約になっていたはずなのです。

4島返還は、日ロ双方に利益をもたらす、プラスサムゲームだということを、向こうに
教えてあげることですよ。日本と仲良くしてごらん、全面的に国交正常化をしてごらん
なさい、どれだけあなたの国の問題が解決できるか、一番幸せになるのはあなたの国が日本
としっかりすることですと。あなたの国は、不法不当に占拠した四つをただ返すだけで、

いい思いをたっぷりできますということを、向こうに説得するしかないということですね。

つまり、その平和条約がなければ、戦略的パートナーシップとか、長期経済協力協定などはあり得ないのです。ということはどんどんシベリアはへなへなになってきて、中国人がどんどん入ってきますよ、いいんですかと言ってやると向こうは、急に顔を緊張させます。

それから、両国で話し合いができるうちは、アメリカに仲介してもらった方がいいとか、国連に仲介してもらった方がいいとか、とんでもないことです。皆さん、仲介という仕事をしてみてください。必ず両方にちゃんと利益を上げなければ駄目なのです。両方の顔を立てるのが仲介でしょう、皆さんだってそうじゃないですか。お見合いの世話をするんだったら、こちらのあばたもえくぼと言うし、こっちのあばたもえくぼと言うじゃないですか。それは駄目なのです。

今、両国で話し合いができなくなったら仲介もいいです。アメリカが仲介しようがイギリスが仲介しようが、アメリカということはあるまいでしょうけれども。つまりこっちは同盟国ですから。仮にスウェーデンの仲介とかスイスの仲介というのは、本当に全然意味のない仲介になってきます。

それから、国際司法裁判所という声たまに出るのです。ICJとありますが、ICJで絶対に勝てるのであったらこれも一案です。しかし、勝てるかどうか分かりません。ICJというのはものすごくしっかりしているところだと皆さんは思うでしょうね。つまり、皇太子妃殿下のお父さんの勤め先です。恐らく、今日ICJで取り上げたら遅くとも4月から5月に判決が出ますよ。日本の裁判みたいに延々とやるのではないのです。審議は多くて3回です。

タイとカンボジアの間にプレアビヒア寺院という世界遺産の立派な寺があるのです。これをどっちにするかというのは2回です。3月16日に第1回目の公判が開かれて、5月12日には、はい上がりです。これはカンボジアのもので、終わりというわけです。ほとんど書類審査だけです。

ですので、小和田さんが判事をやっているうちがいいとか何とか、向こう側の人だってちゃんと判事がいるのです。その他の人は全然北方領土のことを今までやったことのないような人たちが15人ほど並んでいて、どうなるか分かりません。これは、最後の最後の手段ではないでしょうか。仮にそれで負けたら、日本政府は今まで60年間、うそをついていたということになるのです。これは大変なことになって、内閣の一つ、二つつぶれるなんというものではないということだと思います。

つまり、先ほど米田爽子さん、知事賞をもらった方が、中学校のクラスの中でディベートをやったと言いましたね。自分はソ連側についたら勝ってしまった。ああいうことが起こってしまうのです。あれはやはり知事賞をもらうだけあってすごいなと思いました。おそらく、私が私の大学院生と議論して、私が向こう側についたら勝っちゃいますよ、これは。詭弁を弄するという言葉がありますが、ロシア人というのは詭弁がうまいですよ。そ

ういう国とは、くたびれた方が負けですから。ですからぼくは今日、すごくショックでした、勝ったというのは。皆さん、ぜひ米田爽子さんと議論して、負かせてみてください。これは大変な知事賞です。

もう一つ長谷川茄鈴さんがおっしゃった、「返還後にロシア人を追い出してはいけない」ということ。共生、共に生きる、共に暮らすということで世界の領土問題の解決の範を垂れるということ、ぼくは言っているのです。素晴らしい日本人と、素晴らしいかどうか分からないけれどもロシア人と一緒に仲良く暮らす、これは、簡単ではないです。

早い話が、あそこの仮に国後島なら国後島で、イワンという人が車を運転しているといいますね。この人の車の免許証はどうするのですか。日本の道路交通法なんて、何も分かりません。車検なんて何も分かりません。信号なんて生まれてこの方見たことがない、その人の免許証をどうするか。カトリーヌという人が、あそこで医者をやっているとします。その人の医者の免許証は使えるのか使えないのか、そういうことを全部われわれはよく研究する必要がありますし、実は研究しています。安心してください、どうなってもすぐにも対応できるように研究しています。

最後に、大事なのは4島周辺の市町村、根室が一番人口がいたときに5万人を超えていたのです。恐らく今月3万人を切りますよ。ここまで疲弊しているということです。富山は幸せです。恐らく日本海岸では福岡、新潟、金沢、富山の順番じゃないですか。秋田の方が大きかったのに、こんちくしょうと思っていますけれども。

そのためには、官民一体の、それこそ善男善女、老若男女、美男美女もみんな合わさってこれはやらなければいけないことです。それが、ロシアの世論を動かすことです。いくらプーチンが強いなのなのと言ったって、ロシアの世論が動けば違うということです。その意味で日本は主権の問題については、矜持を持って貫かなければいけない。初志貫徹というのはそういう意味で今日の演題とさせていただきます。

どうもご清聴ありがとうございました（拍手）。